

式 辞

自然豊かなここ丹波高原、蒲生野ヶ原も柔らかな日差しとともに春の訪れを感じる季節となりました。

本日、令和二年度京都府立須知高等学校卒業証書授与式を挙行しましたところ、保護者の皆様には、御多用の中、御臨席を賜り、高壇からではありますが、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、日頃より、本校の教育活動の推進に、格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

上げますとともに、今後とも変わらぬ御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

さらに、本年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、参列者の人数制限、換気・消毒の徹底、時間の短縮などこれまでにない形式での卒業式となります。これに対し、御理解をいただくとともに、御協力の程よろしくお願いいたします。

さて、ただ今卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんが手にした卒業証書は三年間にわたり、勉学、農業クラブ活動、部活動などに励み、様々な困難を乗り越え、積み重ねてきた成果の証であります。とりわけ、皆さんの学年は大学入試が大きく変わる最初の年であり入学当初から様々な準備をしてこられたと思います。しかし、昨年からの相次ぐ変更や中止に加え、コロナ禍による影響等も重なり、就職試験についても日程が変更されるなど、不安な日々を過ごされたと思います。

このような状況の中でも皆さんは冷静に対応し、それぞれの進路に向けて一生懸命に頑張ってこられました。皆さんも須知高校での学校生活を振り返り、様々なことがよみがえっているのではないでしょうか。

こうして卒業を迎えられるは、皆さんの努力はもちろんのこと、保護者をはじめご家族の方々の支援があったからだと思います。お世話になった方々には改めて皆さんから感謝の気持ちを伝えて欲しいと思います。

今後、皆さんは激動の社会へと旅立つことになります。これからの社会では、「前例のない」ことや「正解が一つとは限らない」ことに遭遇することが必ずあると思います。そうした社会で活躍していく皆さんに、はなむけの言葉を二つ贈ります。

一つ目は、「自ら考え、行動する」ことです。何事も人から言われて行動するのではなく、まず、自らが考えて行動してください。行動する中で失敗することもあると思いますが、

失敗した場合でも、なぜ、失敗したかを一人では悩まず、周りの人たちにも積極的にコミユニケーションをとって、アドバイスを求めてください。そして、常にチャレンジする気持ちを持ちを忘れず、行動を続けてください。

二つ目は、「自分の意見を主張するだけではなく、相手の意見をしっかりと傾聴する」ことです。自分の考えを述べるのは大切ですが、相手の意見に耳を傾け、しっかりと聴くことで、相手から得られる情報の量と質が変わり、自分の意見をしっかりと理解することが出来ます。このことは皆さんの成長に繋がりますので、是非とも実行して欲しいと思います。

あとになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業おめでとうございます。三年間の学業を立派に終え、頼もしく成長された姿に感激を新たにされておられることと存じます。私たち教職員一同、保護者の皆様の

御期待に沿えるよう努力して参りましたが、
至らぬ事も多々あったことと思います。お許
しをいただきたいと存じます。今日までの保
護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

引き続き、須知高校への御支援を賜りますよ
う、お願いを申し上げます。

結びにあたり、卒業生の皆さんの今後の活
躍を心から祈念し、式辞とします。

令和三年三月一日

京都府立須知高等学校

校長 湯川 佳秀

